2023年度都道府県別バレーボール指導者研修会（報告）

指導普及部　三浦　　稔

開講式の冒頭、岸本協会長の「チーム島根」で！という挨拶のもと研修会が始まった。

はじめに、中谷指導普及部長の講和では「プレーヤーセンタード」「ハラスメント防止」という指導者としての心構えとともに、指導者として現在求められる合理的で科学的な練習計画を立てていくことを確認、共有し、指導者自身が学び成長していくことの大切さを再認識することができた。

本研修は2030年「島根かみあり国スポ・全スポ」入賞に向けて、各カテゴリーで身につけておきたい基礎技術や身体の使い方、戦術について小中高のカテゴリーで共通理解を図り、それぞれでの強化と競技者拡大をねらい実施された。

講師は国スポ重点校に指定されている安来高校の2名で行われた。

「玉木　史郎氏（安来高校男子バレーボール部監督）」

「岩田将太郎氏（　　同　女子バレーボール部監督）」

〇前半：玉木氏が男子の指導について

・パス（特にオーバーハンドパス）の重要性

・スパイクスイングについて合理的な打ち方（サーキュラー・アームスイングについて）

・トランジション（ディグからの切り替えし）の重視

・ブロックの際のアイワーク（目の使い方）

・小中生を交えた地域クラブづくりの構想

　カテゴリーを超えての合同練習について

〇後半：岩田氏が女子の指導について

・フィジカルの重要性（トレーニング重視）

　→すべての練習の土台

・レセプションの重視（カバーリング、ブロックフォローを交えた実戦に近い形で）

　→県大会、春高バレーでの返球率データを元に

・ディグの重要性（面を立てセッターをねらう）

・ブロック練習の重要性

・５対５、６対６ゲームライクの練習重視

両氏に共通しているのは、長身選手が少ない島根県はミスを減らすとともに、ディフェンスを重視し、カバーリングやブロックフォローを含めたラリーのなかで負けないチーム作りをしていること。ボールを触っていない選手の動きや声掛けを大切に「個の力」だけでなく、「全員バレー」「ねばねばバレー」で戦いを挑むことの大切さが印象的だった。

当日は小・中・高・一般とカテゴリー超えて40名もの多くの方に受講していただき、上記の形（完成形）をつくるべく、それぞれの段階で技術の体系化をしていくことなどの課題はあるものの、指導者同士のつながりを強めていくことが「チーム島根」の急務であることは間違いない。「小学校では…」「どうやったらあのプレーが…」あちこちで聞こえる会話が

今後さらに広がりそして深まり、指導者の輪を広げてネットワークを確立していくための大きな一歩になってくれると嬉しく思います。

　また、同日会場には県バレーボール協会参与　荊尾　俊氏（元安来高校女子バレーボール部監督、くにびき国体少年女子準優勝）も来場され、参加している選手や指導者を激励いただいた。バレーボールは年々進化、変遷していく。「科学的、合理的：新しいもの」に加え、先人たちが長年蓄積されてきた「時代が変わっても、大切にすべきこと、変えてはいけないもの」を融合させることで、「新しい島根バレー」が構築されて、国スポ入賞に加えて、国スポ後も、誰もが夢を持ってバレーボールができる島根が持続されると思われる。

　最後に、極寒の中、熱く語っていただいた両講師。ならびにモデルとして参加してくれた安来高校男女バレーボール部、大東高校男子バレーボール部に感謝し、今後のご活躍をお祈りしたいと思います。ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。